

令和6年度

事業報告

上富良野町発達支援センター『ひよこ学級』

《 在籍数及び年間利用者数 》

上富良野町	46人	年間利用	1,369回
中富良野町	8人	年間利用	260回

《 職員体制 》

R7.3月末

管理者 1人

児童発達支援管理責任者 1人

療育指導員（正職） 3人

療育指導員
（会計年度任用職員） 4人

《 指導体制 》

個別指導 … 午前2枠、午後2枠（1時間）

	月	火	水	木	金
09:00～10:00	個別	個別	個別	個別	個別
10:30～11:30	個別	個別	個別	個別	個別
13:30～14:30	個別	個別	個別	個別	個別
15:30～16:30	個別	個別	個別	個別	個別

《 在籍児推移 》

月 (開設日数)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	うち中富	入退級	
									入級	退級
4月(20)	0	1	5	9	9	12	36	7	0	0
5月(21)	0	2	5	9	9	12	37	7	1	0
6月(20)	0	2	5	9	9	12	37	7	1	0
7月(21)	0	3	6	10	10	12	41	8	3	0
8月(20)	0	3	6	11	10	12	42	8	1	0
9月(19)	0	5	6	12	10	12	45	8	4	0
10月(22)	0	6	6	13	10	12	47	8	2	0
11月(20)	0	6	6	14	11	12	49	8	2	0
12月(20)	0	7	6	14	11	12	50	8	1	0
1月(19)	0	8	7	14	11	12	52	8	2	0
2月(18)	0	9	7	14	11	12	53	8	1	0
3月(20)	0	9	7	15	11	12	54	8	1	12

*3月末通級児童数 3月末日合計人数+入級合計数-4月入級人数(54+29-5=83)年間児童発達利用人数 83名

《 他機関利用の状況 》

- ・認定こども園上富良野高田幼稚園 16人
- ・認定こども園わかば中央保育園 11人
- ・なかふらのこども園 7人
- ・富良野みどり幼稚園 1人
- ・認定こども園上富良野西こども園 4人
- ・認定こども園わかば愛育園 10人
- ・子育て支援等 5人

《 年度別利用者数の推移 》

年 度	年間開設日数	延べ利用者数	月平均利用者数	一日平均利用者数
令和2年度	235日	1,806人	151人	7.7人
令和3年度	220日	1,817人	165人	8.3人
令和4年度	229日	1,636人	136人	7.1人
令和5年度	221日	1,689人	141人	7.6人
令和6年度	240日	1,629人	136人	6.8人

《 研 修 》

月 日	内 容	参加者
6月18日	中富良野町教育支援委員会研修会	2人
6月28-29日	第31回北海道通園センター連絡協議会研修会	1人
7月3日	巡回支援専門員整備事業「学習会」	3人
7月12日	令和6年度第1回管内母子通園センター関係職員研修会	2人
8月6日	巡回支援専門員整備事業「学習会」	2人
10月5-6日	北海道乳幼児療育研修会 第38回研修大会	1人
10月25日	令和6年度苦情解決システム研修会	1人
10月30-11月1日	第8回旭川子ども総合療育センター地域支援セミナー	会場参加2人 web参加3人
11月9日	令和6年度発達支援基礎研修【北海道通園センター連絡協議会】（オンライン研修会）	4人
2月12日	令和6年度児童発達支援事業に係る研修会（オンライン研修）	2人
3月1日	令和6年度富良野地方精神保健協会講演会（オンライン研修）	1人
3月4日	令和6年度発達支援研修会（オンライン研修）	2人
3月8日	美瑛町子ども支援センター講演会	2人
3月15日	令和6年度北海道子どもの虐待防止フォーラム（オンライン研修）	1人

《 子ども発達支援推進研修会 》 場所：上富良野町保健福祉総合センター

日 時	9月28日（土）13時30分から15時30分
演 題	「こどもの発達を見守る上で大切なこと①睡眠覚醒リズムとゲームの話題を中心に～」
講 師	荒木 章子 氏（札幌市子ども発達支援総合センター 所長）
参 加 者	48人（町内参加者33人、町外参加者15人） 託児4名

《 人材育成研修会 》 場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	8月8日（木）18時30分から20時00分
演 題	「子どもたちから教わったことを伝えることで・・・」
講 師	柿原 勝 氏（NPO法人にしのみさぽーと代表理事 こども學舎特別専任教員）
参 加 者	認定こども園保育教諭、上富良野町教育関係者、福祉関係者、管内発達支援センター関係者 33人

場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	10月24日（木）18時30分から20時00分
演 題	「自閉症スペクトラム障害の幼児期の発達と支援について」
講 師	齊藤 真善 氏（北海道教育大学札幌校 准教授）
参 加 者	認定こども園教諭、上富良野町教育関係者、福祉関係者、管内発達支援センター関係者 46人

《 道立施設専門支援事業（基礎研修） 》 北海道旭川子ども総合療育センター

日 時	6月11日（火）9時から16時
基礎研修	通園児2人受相
派遣職員	木村医師、井上言語聴覚士

《 地域療育支援 》 北海道立旭川子ども総合療育センター専門職による運動面、言語面の相談

実施回数	4回（4月26日、7月11日、8月20日、12月9日）
派遣職員	言語聴覚士（筒井、寺尾）、作業療法士（松本）
受 相 者	12人（通園児7人、通園外5人）

《 巡回支援専門員整備事業 》 北海道療育園専門職による運動面、言語面の相談

実施回数	7回（5月13日、6月28日、9月11日、10月3日、11月22日、令和7年1月22日、2月4日）
派遣職員	言語聴覚士（佐藤）、作業療法士（杉之下、吉田）
受 相 者	21人（通園児11人、通園外10人）

《 療育講話 》 場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	12月17日（火）10時15分から11時45分
演 題	「こどもの発達について～感覚統合の話を中心に～」
講 師	小松 香織 氏（上富良野町発達支援センター 作業療法士）
参 加 者	児童発達支援通級保護者 16名 託児5名 職員9名

《 その他 》

保護者交流会 5回（4月、6月、8月、10月、12月、R7.2月）	2か月に1回	年6回
発達検査・知能検査 7回 検査者：松田臨床心理士		
カウンセリング 9回 相談員：松田臨床心理士		
職員研修会、事例検討会（講師：北海道盲学校 逢坂一伸氏）		年2回
家族支援（発達相談等） 112回		家族相談・兄弟相談・検査結果報告・担当者会議参加等
きょうだい支援 268回（実人数49人）		
市町村子ども発達支援センター通級回数1,649回		児童発達支援前の発達相談や個別支援等
社会福祉協議会ボランティア依頼 40回（きょうだい支援）		

《 活動のまとめ 》

令和6年度は、新こどもセンターが新設し、個別室4室と運動機能室で療育を行った。

○療育支援

- ・ 子どもの発達過程・特性を理解し、子ども自身の力を認め、それぞれに応じた適切な援助と環境調整を行った。
- ・ 発達状況に応じた個別支援計画を作成し療育を行った。
- ・ 個別支援計画によって子どもの発達や状況の課題について保護者と共通理解を深める機会とした。また、定期的な見直しを行い、よりよい療育につながるよう努めた。
- ・ 作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士等の助言、発達検査の実施等を踏まえ、療育の質の向上に努めた。
- ・ 認定こども園と情報共有を行い、療育の充実を図ることに努めた。
- ・ 発達相談から児童発達支援へスムーズに移行できるように努めた。
- ・ 保護者のニーズに応じた指導時間対応等に努めた。

◆課題

- ・ 環境要因に重点をおきつつ、社会性・運動面・言語面の発達にも目を向けていきながら、早期での関わりを提供できることを目指す。
- ・ 保護者のニーズ把握や先の見通しが持てる療育が提供できるよう、スタッフの資質向上を目指す。
- ・ ケースごとの状況等を職員間で共通理解できる会議等の実施に努める。

○家族支援・きょうだい支援

- ・ 障害のある子どもを育てる家族の育ちや暮らしが安定するよう家族支援、家族相談に努めた。
- ・ 通級児きょうだいの発達にも着目し、きょうだい支援に努め、必要に応じて専門家の相談や相談支援事業所へつなげた。社会福祉協議会ボランティアセンターへ依頼を行った。
- ・ 保護者交流会を設け、親同士の交流の場、発達支援への意見・要望等を聞く時間を設けた。
- ・ 保護者向けの療育講話を1回実施し、年齢別の集団療育でミニ講話を開催した。
- ・ 年長児、年中児の保護者とOB保護者の交流会を設け、就学までの準備や入学後の子どもの様子について話し合う場を作った。

◆課題

- ・ 年齢別での保護者交流会や終了児保護者が集い、情報交換できる場を設ける。
- ・ 個別で保護者と十分な時間を設ける。

○地域の体制づくり

- ・療育に関する情報及びそれぞれの機関の専門的知識や経験を共有し、地域全体における療育の充実を目指した。
- ・地域に向けての学習会開催で他機関との情報交流や地域啓発、周囲理解を図った。

◆課題

- ・療育に関する情報及び適切な関わりに向けて、連携を図り、職員のスキルアップに努める。
- ・すべての子どもたちが地域で楽しく過ごせること、子どもの特性が活かされる環境をつくることを目指し、地域理解・周囲理解が図られるよう啓発、活動に努める。